

Polaris

長町南小学校 第6学年通信

NO. 19

2020.5.26(火)

《子どもたちへ 「2回目の登校日のこと」》

ハラハラドキドキの1回目の登校日。今回は、2回目なので、対応にも少し余裕があるかなとも思いましたが、時計の針を気にしての1時間でした。

皆さんの元気な姿を今回も見ることができました。一週間の過ごし方を交流する時間では「最近、兄弟としょっちゅうけんかしてます。」

「朝は10時頃に起きて、夜は11過ぎに寝てるから、学校が始ったら大丈夫か、少し心配です。」

「塾の宿題がたくさん出されて、学校の宿題もあるし大変！」

という話も出されました。それでも

「午前中は、しっかりと勉強しています。」

「学校が始ったら、算数や社会の勉強をがんばりたい。」

「1年生のお世話をするのが楽しみです。」

と、前向きに考えてくいることをうれしく思いました。

あと一週間、大きなけがや病気もなく、始業式を迎えていきたいものです。

《みんなの日記より》

「新勉強スタイル」

ある日、外の天気がすごくいいのに、外出自粛だから外に出られなくて残念だなあと考えていたら、お母さんが机をベランダに出して

「ベランダで勉強したら？」

と言い、ぼくは喜んで勉強しました。

外はあたたかいけれど、風は少し冷たくて気持ちがよかったです。

そして勉強を少ししたら、アイスやおかしを食べながら休けいをしました。

休けいが終わったら、また勉強を再開しました。

天気のいい日があったら、またベランダで気持ちよく勉強したいなと思いました。

「ベランダに机を出す」というお母さんのナイスアイデア！素敵ですね。

「落ち着いて勉強する」とか「静かに勉強する」ではなく「気持ちよく勉強する」という発想。学校でも外に机を置いてやってみたいなあと感じてしまいました。（これからは暑くなるので難しいかな…）

「学校発」【体力が…の巻】

運動不足解消のために、校庭で体を触れ合わない鬼ごっこをしました。途中からお日様も出てきて、わずか3分間でも、体力を結構使いました。2・4組の皆さん。水筒は持参した方がいいかと思います。（今からこんな暑さでは、夏にはどうなるのでしょうか…。）

6年生 家庭での学習の進め方について その⑱ 「オススメの本」編

今日から自力学習のアドバイスだけでなく、幅広く学びを楽しむようなことを紹介していきます。最初は、オススメの本の紹介です。数年前から、根強い人気で、今でも小学生の人気ランキングNO. 1の本です。その本のタイトルは「**ざんねんないきもの事典**」です。シリーズ化されているので、皆さんの中にも、読んだことがあるという人もいます。

今日は、その中から、いくつか紹介してみます。

〈カメムシは自分のにおいがくさすぎて気絶する。〉

カメムシは敵に襲われると、足の付け根から強烈なおいを放つ液体を発射して、敵を撃退します。皆さんの中にも、あの臭いにおいをかいだことがある人がいることでしょう。

ただ臭いだけでなく、アルデヒドという毒性の化学物質も含んでいます。

せまい容器にカメムシを閉じ込めて刺激すると、自分の出した液体のにおいにやられて気絶してしまいます。気絶するだけでなく、容器に入れたままにしておくと、そのまま、死んでしまうぐらいです。

人間は、自分のおならのにおいで死んだという話は、聞いたことがありません。カメムシ、恐るべしですね。



〈テントウムシは鳥が吐き出すほどまずい。〉



多くの鳥は、虫が大好きで、よく捕まえて食べます。

赤や黒、カラフルな色で、水玉模様のテントウムシは、皆さんにとっても人気の虫の1つでしょうか。春から秋にかけて、学校でもよく見られるテントウムシですが、テントウムシは、強い刺激を感じると、体から黄色い液体を出します。皆さんの中にも、テントウムシを触ったときに、手についたという体験をした人がいることでしょう。この黄色い液体、実は、鳥も吐き出すほど、とんでもなく苦いのです。そうやって、体の小さなテントウムシは、身を守っているのですね。テントウムシがカラフルな色をしているのも、わざと目立って「まずいよ！」と知らせるねらいもあるようです。

昆虫の幼虫や成虫を食べる「食虫」を専門としている人もいますが、そのような人たちでも、テントウムシは避けて通るぐらいのまずさのようです。(そう言われると、食べてみたくなりますが…。)

今回は生き物の中でも「虫」を取り上げましたが、魚や貝、鳥や哺乳類など、様々な生き物について書かれてあります。今の中学3年生の人たちを6年生で担任したときも紹介したのですが、そのときも大人気の1冊でした。

「ざんねんないきもの事典」には、ある蛾(が)の話が紹介されています。その蛾の色は、もともと白色でした。しかし、ふだん生活している森の木の色が、工場の煙でだんだん黒くなり、白色は黒い木の上でとても目立つようになり、鳥に食べられまくったのだそうです。ああ、絶滅するピンチ！ところが、あるとき、黒い体の蛾が偶然生まれて、鳥に食べられにくくなりました。やがて、食べられにくい黒い蛾が生き残り、白から黒へ体の色が変化して、白色の時よりも、かえって、長く生き延びることができたのです。まさに「ピンチはチャンス」ですね。蛾もピンチをチャンスに変えられるのなら、**人間も、今のコロナのピンチを進化に変えるチャンス**だと思います。